

# POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」  
第43号 1999. 8. 30

発行  
北海道ポーランド文化協会  
〒060-0052  
札幌市中央区南2東2  
河合楽器製作所北海道支社  
電話 011-231-8661  
FAX 011-221-4936

やさしい

## ポーランド史(2)

伊東孝之



そしてその苗字は出身地を示すことが多かったのである。

ポーランド語のスキと同じ役割を果たすのがフラン

ス語ではド(D)ドイツ語ではフォン(F)である。ただし、ポーランド語と違って名前の前に来る。たとえば、ド・メーストル、フォン・ゼークトという具合である。いずれも貴族の出自を示している。

では、スキで終わる名前の持ち主は全部シラフタだろうか。そうすると、ポーランドはずいぶん貴族の多い国だ、ちょっと多すぎるのでは、という疑問が湧いてくる。おそらく読者は、ほとんどのポーランド人がスキで終わる名前を名乗っているという印象をもっている。それはちょうどほとんどの韓国朝鮮人がキムという苗字をもっているのと同じである。たしかにポーランドはシラフタが多い国だった。一九世紀初頭に一〇〜一五%ぐらいだったといわれる。しかし、現在の数はとてもそれにとどまるものではないという印象がある。

ポーランド人の名前はスキ(スキ)で終わっていることが多い。ロシア人もそうではないかという人がいるかも知れない。たしかにスキで終わっている名前をもつロシア人もいるが、そういうロシア人はだいたいポーランド系である。たとえば、ドストエフスキー、シコルスキーがそうである。したがって、スキで終わっている名前はポーランド系と考えてまず間違いない。

スキというのは名詞から形容詞を作るときの語尾である。たとえば、ドンブロヴァという地名があるとすると、ドンブロヴァの、という形容詞を作ろうとすると、ドンブロフスキとなる。つまり、スキで終わる苗字は、「の」という意味なのである。

これはある地方の出身であることを示す。たとえば、ヤン・ドンブロフスキという人がいるとする。これ

は、ドンブロヴァ出身のヤン、という意味である。実は単に出身だけではなくて、その地方を領有しているという意味も込められている。先の例に従うと、ドンブロヴァという地方を領有しているヤン、ということになる。

領有しているとなると、これはもうただの農民ではない。そう、領主、つまり貴族なのである。ポーランド語でいうシラフタである。

わが国でも昔は出身地+名前という使い方をした。源平の壇ノ浦での戦いに「那須の与一」という弓の名手が登場するが、あれは関東の那須地方の与一という意味だろう。与一はもちろん農民ではなく、那須地方を領有していた豪族の一門と思われる。もともと農民には苗字というものがなかった。苗字は武士にのみ許されていた。

ただ、社会主義時代の指導者の名前を思い浮かべただけでも、ゴムウカ、ビエルト、オハプ、ギエルクという具合にスキで終わる名前は実は少ない。スキで終わる名前はヤルゼルスキに至ってはじめて登場する。だから、「ほとんどポーランド人が」という印象は錯覚である。せいぜい三分の一ぐらいというのが正しいだろう。韓国朝鮮人の七五%がキムという姓をもっているのはちょっと違う。

それにしてももともと一〇〜一五%だったものが現在、三分の一に達しているというのはどういうことか。実は、シラフタ身分は閉鎖的なことで有名だった。封建支配層はどこでも閉鎖的であるが、通常かなり他の社会層から上昇する機会が与えられているものである。たとえばイギリスやフランスでは武勲や仕官によって多くの者が貴族身分に取り立てられていく。わが国においては養子縁組などによって町民や百姓が侍に取り立てられる例が多かった。

これに対してポーランドでは一四世紀のカジメシ大王式目以来シラフタ身分がほぼ完全に閉じられ、他の身分からの上昇の機会は

きわめて限られていた。正式にシラフタ身分に取り立てられた者は正確に記録されているが、たとえば一六〇一年から一七六三年までの一六三年間に僅かに三六六名だった。

一九世紀末に『ポーランド紋章図鑑』というシラフタの家紋と系譜を網羅した全一三巻の本が編纂されている。由緒正しいシラフタの血を引く者であれば、この本で先祖をたどることができだろう。つまり、それほどシラフタの範囲は限られていたということである。

しかし、実際にはシラフタの系譜というのは怪しいものである。一八世紀にはシラフタ身分詐称の疑いで裁判所に訴えられる者が跡を絶たなかった。事件はナガナ・シラヘットファ（シラフタ身分告訴）という特別の名称を与えられたほどである。この裁判で証人などを立てて疑いを晴らすことができると、シラフタであるという証文を得ることができた。これを逆用して、シラフタになりすます者もけっこう多かったらしい。関係者すべてに金を握らせ、事件をでっち上げて勝訴すると、シラフタであるというお墨付きが得られ

たのである。

一九世紀の農民解放以後、農民も苗字を名乗ることが許された。わが国でも農民は明治以後苗字を名乗ることが許されたが、その際に好んで高貴の血筋を示す苗字を採用した。ポーランドでも同様だったらしい。農民あるいはユダヤ人のシラフタ姓採用という過程は、第二次大戦後にまで及んだ。

今日ではスキで終わる名前はシラフタの血筋とほとんど関係がないと考えた方がよい。もともと必ずしもすべてのシラフタがスキで終わる名前を名乗ったわけではない。ラジヴィウ、サペハ、ザレンバ、スカルガなどというポーランド史に名を轟かせた大貴族はスキで終わる名前を名乗っていない。たとえば、暗殺されたケネディ米大統領の夫人ジャックリーヌはラジヴィウ家の出身で、社会主義時代でさえポーランドに帰国すると民衆から王妃様の里帰りのような歓迎を受けた。

本当の貴族は名前を誇る必要がない。名前を誇りにする者がいるとしたら、間違いなしに俗物である。

（早稲田大学教授）

## 第38回例会予告 ポーランドのフォークダンスの夕べ

日時 10月11日（月）午後2時頃から  
会場 札幌市女性センター 2Fホール  
出演 フォークダンス研究会（F研：札幌在住のフォークダンスグループ）  
演目 ポーランドの民族舞踊  
簡単なダンスを教わって参加者も踊ってみませんか。会員以外の方々もお誘いして多数ご参加下さい。詳細は追ってお知らせします。

◆総会は10月15日（金）すみれホテルで開く予定です。

## 第37回例会ご案内

### ビデオによるポーランド映画鑑賞会

# 「聖週間」 アンジェイ・ワイダ監督

1995年 ポーランド・ドイツ・フランス合作

1996年 ベルリン国際映画祭 銀熊賞を受賞

日時 9月25日（土）午後1時30分～

会場 かでる2・7（中央区北2条西7丁目）特別研修室

解説 本間富雄氏（北海道ポーランド文化協会運営委員）

会費 無料 どなたでもお気軽にご参加下さい。

## 聖週間とユダヤ人問題

本間 富雄

「聖週間」とは、キリスト教の復活祭の一週間のことである。

ポーランドの政治には、影絵のように、地と図柄が逆転する時がある。光と闇、正と邪、敵と味方が交錯し、その奥から金環食のような不思議な構図が現れる。

戦後、「灰とダイヤモンド」を見たときの最後の無残な風景は、永くなぞのままに残っていた。その意味がやっと解けて来たのは大戦末期のポーランドの歴史を多少学んでからのことだった。映像や音楽は、その時代に禁じられた言葉を、言語以上に表現することができる。

「聖週間」は「灰とダイヤモンド」と同じ、イエジー・アンジェフスキーの原作である。ワルシャワ・ゲットトのユダヤ人がナチスに対して蜂起した一九四三年四月十九日から五日間のできごとを描いている。四五年、この小説が出版され、それを読んだアンジェイ・ワイダ監督は、ただちにそれを映画化しようと

試みたが検閲当局によって何度も却下された。当時のソビエト政権は国内のユダヤ問題に触れなくなかったのだ。

ヨーロッパでは永い間、反ユダヤ主義の根強い伝統があった。シェイクスピアのヴェニス商人に登場するシャイロックに対する裁判は、現代法から見れば、けっして公正な判決とは言えないが、それを心情的に受け入れる土壌があったから、それが文字になったのである。二十世紀初頭、反ユダヤ感情が特に強かったのは、オーストリア・ハンガリー帝国である。オーストリアで生まれたヒトラーは、民衆の不満や怨念や、敵対意識を巧みに利用し、選挙で第一党となり、ドイツにナチス（国家社会主義ドイツ労働党）政権を誕生させた。ポーランドで生まれ、のちにアメリカに渡り映画監督となったビリー・ワイルダーは、アウシュビッツ収容所で母と祖母を失っているが、現代のヨーロッパでも、表面

はホロコーストに憤慨しナチを非難しながらも、心の中ではユダヤ人が滅びたのを喜んでゐる人たちがいることを指摘している。

ユダヤ人問題は基本的には人間の心に巣くう差別・偏見の問題であるが、人は誰でも自分の中にある良心に背くもうひとりの自分の存在を認めたくないし、思い出したくない。

旧体制崩壊後、一九九〇年にワイダ監督は初めて、ゲットーの中で人間関係を描いた。「コルチャク先生」を発表した。さらに九五年この「聖週間」で、近隣ポーランド人との関係という微妙な問題に迫っている。

ユダヤ人をかくまうことは連帯責任（死刑）を問われるナチス占領下の時代、森の中の一軒家に住む共同住宅の人たちの揺れ動く心情を、ワイダは抑制のきいたタッチで描いている。

四月のゲットーの反乱から五月の壊滅まで、沈黙するしかなかったワルシャワ知識人たちの心の痛みが、この映画の中で語られている。



# AOMORI MUSIC FESTIVAL

岡田照幸

昨今、日本各地で音楽祭が開催されている。どれもそこそこの評判らしい。経済状況が悪い中で音楽祭が立ち行かなくなったという噂も聞かえてこないから、町おこしやらなにやらで地域における音楽の果たす役割がそれなりにあるのだろうか。

かくいう私へも去年の末、音楽祭をしたい旨の要請があった。

「わが県で一番おこなわれているクラシック音楽を普及させたいのですが……」

「普及してなくてはなりませんよ。」  
「予算が限られてまして……お考えを聞かせていただきたいのですが……」

潤沢なる予算をして行う公共事業を除けば、舗装道路の数センチぶんに満たない本当に限られた中でやりたいとの正直な申し出に、実は舌を巻いた。クラクフのステファンスキ教授が突然亡くなられ帰国、やむなく職を求めて青森県へ来たのが一九八三年のこと。東京と陸続きの

気安さだったが、東北自動車道の全線開通は未だ先の事で、車に乗っている時間でポーランドまで行けた時代であった。夢と現実が行ったり来たり、この地が終の棲家になる日も近いだろう。

ふりかえること五十年前、ワルシャワでは戦後処理もそこそこに国際シヨパンコンクールが再会。我が師の奥方ステファンスカ先生が優勝された。シヨパン没後百年の年であった。そして今年に没後五十年である。五十年前を知らないし、百年、さらに百五十年前となると、この地は寒村であったと聞く。シヨパンが生を受けた当時とたいして変わらない今の音楽状況ではあるが、どうやら数の比率でのみ辻褄が合うよううだ。偶然といえばまったく偶然だが、勇躍、凛としてポーランドから果てのこの地で、シヨパンだけを四日間奏でようではないか。芸術監督は、言わずもがなステファンスカ先生。ほかに、エリジピエタ・ステ

ファンスカさん、高橋多佳子さん、下田幸二さん、川染雅嗣さん、プロック音楽協会主催・第五全国ステファンスキ教授記念ピアノコンクール優勝の二少年とその指導教授二人。参加アーティスト十五人中、十人がポーランド関係者だ。

「予算がかぎられてますので、とりあえずこれでいきます。」

「こんな大げさになって本当にだいじょうぶですか。」

「音楽祭の名前は、札幌がPMFですのでこちらはAMFにしましょう。Aomori Music Festivalです。」

ポーランド滞在と、この地での経験は、金を遣わず頭を使うことを教えてくれたようだ。

## ■AMF日程

十一月五、六、七日

青森県鯉ヶ沢町日本海拠点館

十一月九日

青森市民文化ホール

## ■筆者紹介

一九八〇～一九八二年 クラクフ在住

AMFプロデューサー

ピアニスト

(スイス、マスタープレーヤーズ

コンクール 3位)



## ポーランド語講習会のお知らせ

### すぐに役に立つポーランド語

春期に引き続き、聴いて・話して・読んで・歌う  
初級基礎コース。

その他、文化や情報などを語り合う  
楽しいポーランド語教室。

旅行を計画の方で簡単な言葉を、  
しばらく中断されていた方でリフレッシュなど、  
皆様の参加をお待ちしています。

マジエーナ先生、高岡美保先生が担当されます。

#### 【日時】

9月29日～11月24日  
毎週水曜日  
午後6時～8時  
全8回

#### 【場所】

北海道クリスチャンセンター  
札幌市北区北7西5  
(電話 736-3388)

#### 【会費と申し込み】

10,000円(8回分)  
初回会場にて申し受け

#### 【お問い合わせ】

富山まで  
(電話 551-7698)

## ポーランドから

### チェン・ドブリ!

●チェン・ドブリ!カトヴィツェの  
マジエーナ先生と会うことができた。  
翌日クラクフを案内していた  
だけ、お陰様で楽しい時間を過ごす  
ことができました。私はあと二週間  
ほどウッチで研修の後、グダンスク  
に移ります。まだまだ片言ポーラン  
ド語ながら、ホームステイ生活を楽  
しんでいます。これから二年間、グ  
ダンスクの大学で日本語の指導、頑  
張って参ります。ではまた、札幌の  
みなさんにどうぞよろしくお伝え下  
さい。

八月九日

ウッチにて

山川 素子

「二十六期ポ語講習会参加。青年海外  
協力隊員として、大学で日本語教育を  
応援」



## ●ポーラ

ンド語教  
室の皆様  
お元気で  
しょう  
か。六月  
末、ワル  
シャワに  
無事到着



着、家族三人のアパート生活が始  
まったばかりです。アパートはワ  
ジェンキ公園の近くで、五十分  
おきにバスがあり、便利なところ  
です。ワルシャワは新しいビルが目立  
ち巨大なスパーもあり想像を超え  
た環境にびっくりしています。早  
速、ポーランド語を使ってみまし  
た。

「チェン・ドブリ」。

隣の奥さん、にっこりと「チェイ  
ン・ドブリ!」

七月十日

ワルシャワにて

長野 明美

「二十七期ポ語講習  
会参加。ワルシャワ  
工大へ出張中のご主  
人に娘さんと一緒に  
同行」

## 一九九八年度ポーランドの物価

ポリティカ誌によれば、十二月末のワルシャワの物価は対前年四%アップ（四十一品目平均）で、抜粋は表の通り。なお、平均月収は一、二八七ズウォティで対前年十%アップとなっています。

昨年度のインフレ率は、この十八年来初めての一桁台：混乱期の十年前は三桁台であった年間インフレ率は、九一年度から二桁台になり、九八年度は遂に一桁台の九%になったとの特記あり。（富山）

品物	市価	月収で購入できる量			
		1998 円*	1998 [ズ]	1997	1993
パン	kg	83	560	530	468
牛乳	l	40	1,170	1,110	820
バター	250g	83	560	507	431
チーズ	kg	468	99	90	82
砂糖	kg	68	677	666	431
牛肉骨付	kg	270	172	129	82
馬鈴薯	kg	25	1,839	1,457	2,050
リンゴ	kg	58	804	777	745
オレンジ	kg	122	379	364	216
ウオッカ	0.5l	630	74	75	67
コーヒー	100g	68	677	686	631
チョコレート	100g	58	804	729	432
ビッグマック	食	191	243	243	132
婦人美容室	回	1260	37	39	34
紳士背広	着	21,600	2.1	2.1	2.0
冷蔵庫(280l)	台	41,400	1.1	1.0	0.4
カラーテレビ(21型)	台	26,964	1.7	1.1	0.6
映画	回	432	107	116	117
CDコード	枚	1,512	31	36	27
市営交通	回	50	920	833	1025

〔注〕 POLITYKA (1999. 1. 9号) より

円換算\* 1ズ=36円として (\*98年 3. 50ズ=1ドル=125円)

### ピアノコンサートのお知らせ

#### 「日本・ポーランド友好ヤングピアニストの競演」

日時 1999年11月12日(金) 午後6時～

会場 札幌サンプラザホール

(北区北24条西5丁目)

共催者 (株)河合楽器製作所北海道支社

後援 北海道ポーランド文化協会

料金 全席2,000円 各プレイガイドで発売

第5回ポーランド全国ルートヴィク・ステファンスキ教授記念コンクール1位(2名)を獲得されたマチェイ・ガインスキ(15歳)パヴェフ・ステシチン(15歳)の2名が来日につき、ショパン学生ピアノコンクールとカワイ音楽コンクール全国大会の上位入賞者総勢8名による演奏会。

〈報告〉

### チャリティー バザーについて

六月十二日昨年同様、市民会館二階の会場でバザーを実施しました。

今回は品物の集まりが少なく売り上げは昨年並みまではいきませんでした。

でも会場にはポーランドの留学生をはじめたくさんの方が来場してくださって、ほとんどの品物が捌けました。

売上金 四二、三〇〇円

これからも折りに触れバザーを開きたいと思いますので品物の提供・労力のご協力をよろしくお願いいたします。

「ポーレ」編集委員会

小笠原正明・斎田道子

佐々木保子・安田誠子

(連絡先) 621・1738

(斎田)

## POLE 第 43 号(1999.8.30)目次

伊東孝之「やさしいポーランド史(2)」	1
〈第 38 回例会〉「ポーランドのフオークダンスのタベ」(1999.10.11)のお知らせ	2
〈第 37 回例会〉ビデオによるポーランド映画鑑賞会『聖週間』(解説:本間富雄、1999.9.25)のお知らせ、 本間富雄「聖週間とユダヤ人問題」	3
岡田照幸「AOMORI MUSIC FESTIVAL アオモリ・ミュージック・フェスティバル」	4
第 28 期「すぐに役に立つポーランド語」講習会(1999.9.29~11.24)のお知らせ、ポーランドからヂェン・ド ブリ!(山川素子、長野明美)	5
1998 年度ポーランドの物価(「ポリティカ」誌より)、「日本・ポーランド友好ヤングピアニストの競演」 (1999.11.12)のお知らせ、チャリティーバザー(1999.6.12)について	6